

MIS050-P19

会場:コンベンションホール

時間: 5月23日17:15-18:45

## 北海道太平洋岸で実施している津波避難サポートプロジェクトの紹介と 2010年2月チリ地震津波における効果検証

### Tsunami evacuation support project in the Pacific coast of eastern Hokkaido and evaluation the program in case of the 20

西村 裕一<sup>1\*</sup>, 隈本 邦彦<sup>2</sup>, つなみ避難サポートプロジェクトメンバー<sup>3</sup>

Yuichi Nishimura<sup>1\*</sup>, Kunihiko Kumamoto<sup>2</sup>, Members of Tsunami Evacuation Support Project<sup>3</sup>

<sup>1</sup>北海道大学, <sup>2</sup>江戸川大学, <sup>3</sup>北大科学技術コミュニケーター養成ユニット

<sup>1</sup>Hokkaido University, <sup>2</sup>Edogawa University, <sup>3</sup>CoSTEP, Hokkaido University

我々のグループでは、2007年度から北海道太平洋岸の各地で津波防災集会を実施している。きっかけは、2006年12月と2007年1月に千島列島中部で発生した地震の際に発表された津波警報に対して住民の避難率が低かったことにある。我々は、この原因の一つにコミュニケーション不足があると考えた。そこで、防災集会の開催を北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット（CoSTEP）のプロジェクト実習としてスタートし、2008年度以降は一般の外部資金を得て活動を続けている。プロジェクトではまず、避難しない理由を次の4つにあると分析した。それらは、（1）津波やその情報に対する誤った知識、（2）小さい津波なら大丈夫という誤解、（3）自分だけは被災しないという偏見、（4）避難（所）への不安感、である。そして、それぞれの課題に対応するように防災集会のコンテンツを構築した。それらは、（1）専門家との対話（講演ではなく双方向コミュニケーション）、（2）実習生による手作りのプレゼンテーション、（3）バルネラビリティを意識した避難地図づくり（グループワーク）、（4）避難食の試食会、である。集会はこれまで、4市町村の5町内会で実施した。参加者はそれぞれ、30-50人であった。一方、2010年2月に発生したチリ地震津波に際しても、避難率が極めて低かったことが指摘されている。これは、我々が集会を実施した5箇所では津波に対する理解度や避難行動を検証する貴重な機会でもある。各地で訪問調査やアンケート調査を実施し、集会の効果を検証するとともに、今後の集会におけるコンテンツの改良に役立てたいと考えている。

キーワード:津波,避難,北海道東部,防災集会,科学コミュニケーション

Keywords: tsunami, evacuation, eastern Hokkaido, town meeting, science communication